

高等教育機関へ進学した元外国人児童生徒のライフストーリーによる振り返り

—面接調査とTEM分析—

奥山和子 (神戸大学)

1. はじめに—背景と研究目的

昨今の外国人児童生徒の特徴として滞在の長期化と定住化傾向が指摘されており、教育現場においても、かれらの日本社会における自立を視野に入れ、キャリア形成を見据えた教育や取り組みが求められるようになった。それには、高校などの入学試験に対応できる学力育成をはじめ、将来的自立に向け、長期的スパンで外国人児童生徒の教育を考える必要があるが、まだ、そうした観点からの報告は多くないようである。本発表の目的は、現在、高等教育機関に在籍している元外国人児童生徒に面接調査を行い、かれらが語るライフストーリーをもとに、これまで遭遇してきた困難な問題をどのように乗り越えたかを考察することにある。後述するように、本調査研究は質的分析であるため一般化を目指すものではないが、かれらが体験した問題は、外国人児童生徒が広く共有する問題だと思われるため、彼らのライフストーリーを考察することは、今後増加が予想される外国人児童生徒への指導においても有益だと考える。

2. 調査研究

2.1. TEM の採用

本調査研究では、時系列に沿った半構造化面接を行うため、分析の枠組みとして面接データの分析手法である TEM と呼ばれる複線径路等至性モデルを採用する。TEM は、一般に「人間の発達や人生径路の多様性・複線性の時間的変容をとらえる分析・思考(荒川・安田・サトウ、2012:97)」とされる。その特徴は、人間の成長を、時間的変化と、文化的・社会的文脈の中で捉えて記述しようとするところにある。そして、そこに現れる様々な経験に着目し、それに関わる行動要因を、社会的・文化的視点から多角的に考察し、最終的に、調査協力者の成長のプロセスの全容を理解しようとする質的分析である。

2.2. 調査協力者の属性と面接法によるデータの収集

本調査研究では調査協力者として 4 名の元外国人児童生徒を選んだ。選定基準は、非漢字圏出身者であること、来日時に日本語知識が全くないこと、そして、大学、短大、専門学校などの高等教育機関へ進学していることである。4 名という調査人数は、TEM において妥当とされる数値である¹⁾。また、調査協力者の属性としては、日本語指導を必要とする外国人児童生徒の約 80% が非漢字圏出身者²⁾であり、ほとんどが日本語の知識を持たないで来日しているという実態に即し選定した。そうした属性を有した調査協力者の情報は、より多くの外国人児童生徒指導に共有され、有益だと考えたからである。そして、来日時の年齢は、高校入試への準備期間を考慮して 13 歳頃までを対象の上限とした。

2.3. 分析方法

調査協力者の来日から高等教育機関に進学するまでのライフストーリーを TEM 図で示したも

のが図1である。

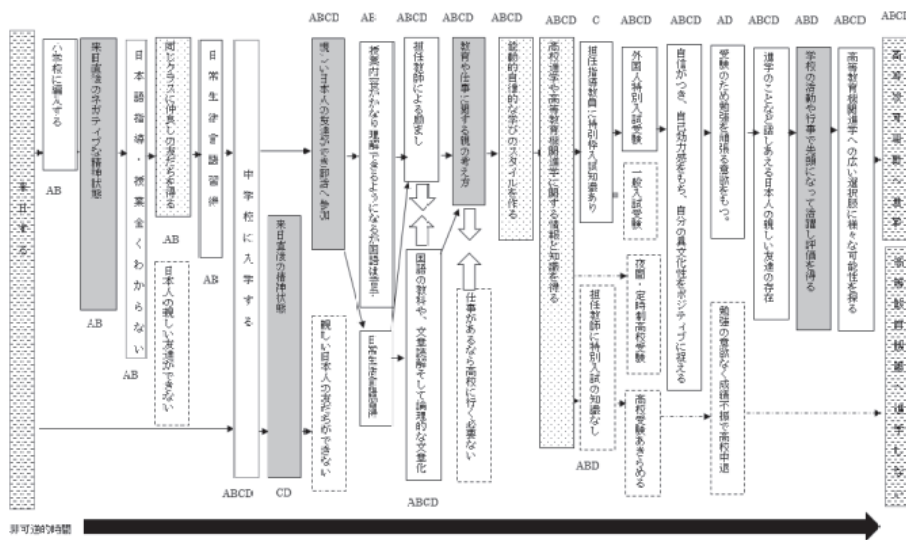


図1 来日から高等教育機関に進学するまでの TEM 図

2.4. 分析結果

4名の調査協力者のライフストーリーを通して、来日した外国人児童生徒が進学を果たすプロセスを観察した。特に、かれらの将来的自立やキャリア形成を考える際、重要となってくる進学に焦点を当てて TEM 図をもとに考察してきた。その結果、来日から進学までのプロセスを俯瞰すると3つの重要な支援が確認できた。それは、第一に進学という進路選択を理解してかつサポートしてくれる親、第二に身近で大切な相談相手となる友だち、そして、第三に認知発達を理解した日本語指導を行い、かつ様々な進学情報を把握している教師である。これらが、いわば支援3本柱として、調査協力者のこれまでのプロセスにおいて不可欠な存在であったことが看取できた。

3. おわりに一まとめと課題

調査の結果、外国人児童生徒のキャリア形成に向けた進路で最大の難関が、公立高校などの入試であることが確認できた。将来的自立やキャリア形成のためには学歴が必要であるため、入試を避けて通ることはできない。この問題を解決するには、4名の調査協力者がそうであったように、外国人児童生徒を対象にした特別な入試制度の整備・拡大を推進する必要があるというのが、本調査研究から得た筆者の感想である。現在の社会・経済状況が続く限り、こうした人々が今後も増え続けることは必須であるため、そうした状況を認識した対応が喫緊の課題と言えよう。

注)

- 1) 安田裕子・サトウタツヤ(2012)『TEMでわかる人生の径路』誠信書房
- 2) 文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/06/_icsFiles/afieldfile/2016/06/28/1373387_03.pdf

【引用・参考文献】

荒川歩・安田裕子・サトウタツヤ(2012)「複線径路・等至性モデルの TEM 図の描き方の一例」『立命館人間科学研究 25』 pp.95-107
 齋藤ひろみ・池上摩希子・近田由紀子編(2015)『外国人児童生徒の学びを創る授業実践』くろしお出版